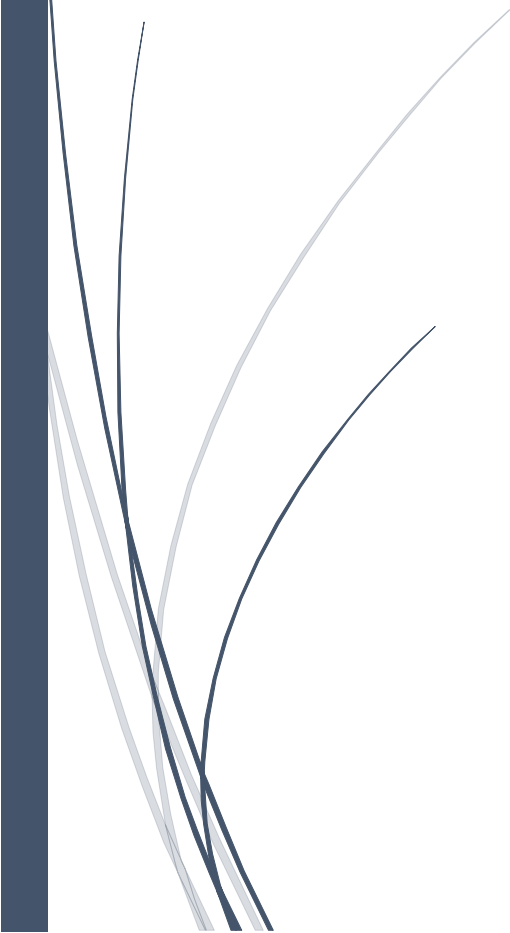




事業報告書

令和元年度



松風荘

内容

本園事業報告	2
令和元年度 第一分園事業報告（パインツリー）	6
第二分園事業報告（ツインリーフ松風）	9
第三分園事業報告（もちのき）	11
家庭支援総括	14
自立支援プログラム（自立支援コーディネーター）総括	15
食生活総括	18
心理支援報告	21
防災安全委員会総括	21
マニュアル委員会 総括	24
性教育委員会総括	25

事業報告書の作成にあたり

令和1年度は、平成から元号が変わり、時代の移り変わりが子ども達共々感じられました。時代の移り変わりに関係なく、子ども達は元気よく過ごしてくれました。

本年度はコロナウイルスの感染防止の観点により送別会を卒園生がいる 本園、第2分園だけの開催をしました。今年は、進学二名、就職二名の計四名が巣立ちました。入社式、入学式がそれぞれ、延期を余儀なくされ 前途多難なスタートとなりました。松風荘もできる限り応援していくつもりです。

入所児童は、職員さんからの献身的な関り、学校の先生、地域の方々からの支援のもと、着実に成長しました。各拠点においては、それぞれの特色がありつつも、子ども達の生活に差異が出ないように、拠点間の話し合いを行いました。子ども達が健やかな育ちが出来る様、松風荘全体で生活の知恵を出し合って欲しいと願っています。

日頃より松風荘の子どもたちの成長を見守っていただいているみなさまに令和1年度事業の報告を差し上げるとともに、深く感謝申し上げます。

令和2年3月吉日

社会福祉法人 松風荘 施設長 村松信知



本園事業報告

＜運営総括＞

年度当初は12名定員の10名でスタートする。5月より1ヵ月間小学生男児の緊急一時保護委託を受ける。6月に中学3年男児の入所、7月幼児男児が一時保護委託、9月小学生男児が入所し定員12名と一時保護委託1名の計13名の入所となる。養護ニーズに柔軟に対応し、居室を増やし一時保護委託を受けた。被虐待児童が多く発達課題を抱える児童もいることから、治療的養護を念頭に専門職や医療機関との連携をしながら支援を行った。幼児児童が入所してから休日の宿直を2名体制として、手厚く支援することに努めた。

＜支援総括＞

家族会議やGW行事、夏キャンプを中心に集団形成に努めた。夏キャンプは8月上旬に実施したが、高校生児童が学校行事や部活動で参加できず全員で行事に取り組むことが難しい現状であった。中学生男子児童が年少児に対し威圧的な言動や行動があり、年少児童が生活しづらいような環境にならないように配慮する必要があった。集団としては中学生男児が精神的な不安定さから、他児と馴染めないことがあったが、高齢児が年少児を温かく見守る雰囲気はあった。進路では中学3年男児2名が受験に向けた意識が薄く、計画を立て学習に取り組むように支援した。対人関係に課題のある児童については進路会議を行い、丁寧に見てくれる高校選択を行った。高校3年男児は沼津市内に就職が決まり女児は専門学校に進学が決まる。特別支援学校の高校3年生女児は三島の一般就労先に就職が決まり、障がい者グループホームの入所も決まる。今後の課題として職員間のチームワークと支援技術向上があげられる。

1.児童対応

①生活ルールについて

生活ルールを大きく逸脱する児童はいなかった。高校生児童の帰荘時間など生活における要望は個々に応じその都度、相談し柔軟に対応した。学期ごとに家族会議を行い、掃除・炊事当番・片付け当番などの役割を決めた。また、児童からの要望を聞き児童中心に生活ルールの改善に取り組んだ。

②行事について

GW行事や夏キャンプを通し集団形成を行い、思いやりのある集団作りに取り組んだ。GW行事は全員参加が出来たが夏キャンプは学校行事で参加出来ない児童や部活動があり途中参加となる児童がいた。夏キャンプは幼児がいることからやまびこ荘の宿泊施設を利用し1泊2日にて実施した。希望行事は各々に希望を出し企画を行い実施したが、希望行事の趣旨に添わない行事が多く次年度に課題が残る。冬休みに帰省をしない児童を対象に貸別荘に宿泊し2日目に富士急ハイランドへ行く。春行事はスキースノーボード遊びを実施する。高校3年児童は横の繋がりを作るため、八景島シーパラダイスへ行った。

※今年度実施した行事

日付	行事名	参加者	経費
5月4日～5日	GW行事 市民の森1泊2日キャンプ	児童全員（10名）職員8名	18,682円
8月1日	希望行事：海釣り	S.H 職員1名	4,786円
7月31日～8月2日	夏キャンプ	児童11名（1名学校行事で不参加） 職員11名	146,990円
8月14日	希望行事：マリンプール	H.N・S.K・O.Y 職員2名	5,470円
8月18日	希望行事：駿府城公園祭り	H.N・K.A 職員1名	6,540円
8月15日	希望行事スポッチャ	K.R・S.T	8,850円
1月2日～3日	正月宿泊行事	児童7名 職員3名	114,304円

※招待行事

夢シート野球招待・ヤングアメリカンズワークショップ・ヤマハモーターハイドリックシステム労働組合ボウリング大会、納涼祭・寄付金による富士山行事・未来塾芋ほり（小学生）・ジョイランド招待・明治安田生命みなみ祭、サッカー観戦招待・三島チップディズニーランド招待・タイム昼食招待（男児）志摩津寿司の寄付

※交流、全体行事

沼津プロレスクリスマスライブ・アイム、スーツ贈呈式、VOXRAYライブ・伊豆長岡合同企業説明会、資金講座・まある体験（小学生）高齢児合宿・ボクシングセッション坂本さん・クリスマス会



③学習対応・学校連携について

幼児は長期休みなどに教材を使い、小学校入学に向けて学習する時間を設けた。

小学生の学習は宿題を中心に丁寧に行うよう支援した。予定帳を確認しながら、必要に応じ担任の先生とも連絡を取り漏れの無いように対応した。

中学生の学習は、一時間学習を中心に毎日行うことは定着している。それぞれに合わせた学習塾を選定し通うことができている。中学3年生男児は学習ボランティアに定期的に学習を習い、基礎学力の定着に繋がった。

高校生はテスト前に自ら学習を行う姿が見られた。進学校の公立高校に通う児童は日頃から家庭学習にも取り組んでいた。

長期休みの学習は目標を立て課題の取り組みを行い、一覧表を作り宿題の進み具合を把握しながら行った。ぎりぎりまで課題が終わらない児童もいたが、学校が始まるまでには全て終わることが出来た。

④児童間の関係について

今年度も児童関係相関図のアンケートから関係性の把握を行う。高齢児童が大半を占め、年少児との関係や関わりについて配慮することがあった。中学生男児の精神的な不安定さから、年少児への威圧的な関りがあり話し合いを行う。精神年齢から年少児に対し対等に向き合ってしまうことが原因であった。高校生児童が幼児を温かく見守る様子も見られた。安心・安全な生活の場を提供していくことは今後も課題となる。グループホームの女子児童と高校生男子児童が好意を持って関わることもあり、グループホームと連絡を取り合い対応を行った。

⑤家庭との交流について

今年度一時保護委託児童がおり、福祉司や保護者と調整を行い、母子交流を繰り返し行った。施設とも良好な関係を築くことができ、保護者の児童に対する気持ちにも前向きな変化が現れた。

新規入所の際は、家庭支援専門相談員で事前面会へ行き児童の様子、親の状況を把握に努めた。また、生活支援会議の中で情報共有を行い、ケースの把握が出来るようにした。情報共有を元に今後の支援方針も全体で検討した。家庭訪問・電話連絡・手紙のやり取り等は児童相談所と密に連絡を取りながら実施することができた。

施設入所後初の父母面会については、事前に保護者と家庭支援専門相談員2名で面会を行い、今後の交流の在り方を話し合い、その後面会を実施した。

家庭復帰を視野に入れたケースについては、施設長も話し合いに同席し検討を行った。施設での面会交流以外にも長期外泊・週末帰省を実施した。また、ケース移管が必要になる為、関係機関との情報共有も密に行った。

2. 日常業務

①食生活・調理実習

食事時間には食事マナーを教えながら、食事の大切さや楽しく食事を摂れるように支援した。年度途中から食事の机を2つ繋げ2班にする。食事時のトラブルはないが、食事に時間が掛かる児童が多かった。小学生児童は個別に調理実習を実施し、食材の買い物から調理までの工程を体験できるように支援した。中高生児童は希望する児童で調理実習を行った。

②健康面・衛生管理について

身辺整理にはだらしない児童がおり、部屋に衣類などが散乱していることがあった。休日には分担掃除、日曜清掃・居室掃除に取り組み、清潔に保つよう心掛けた。衣類管理ができない女児にはその都度注意し、衛生面での意識向上に努めてきたが改善に至らない児童もいた。

健康管理には留意し体調不良に際しては早めの受診対応を心掛けた。インフルエンザの予防接種及び、その他の予防接種を実施した。

年末年始にインフルエンザや体調を崩す児童が複数出たため、もちつきは本園のみで行うなど、グループホームへ感染が広がらないようにした。

③防災について

火災避難訓練を月1回行い、地震避難訓練を年2回・夜間想定避難訓練を年1回実施した。

④副業務・在庫管理について

日用品・衣料の在庫を適宜確認し、適正な在庫管理を行うことができた。

3. 職員間連携

①チームワークについて

個別対応を重視しながら、連絡を密に行い問題の改善、トラブル回避に努めた。勤務交代時に口頭での引継ぎを丁寧に行い引継ぎ書も活用しながら漏れのないように努めたが、引き継ぎ漏れや支援への気づきに欠けることがあった。新規入所児童の受け入れについては家庭支援専門相談員と担当職員が連携し、新規入所児童の不安軽減などに努めた。

②会議について

職員会議、養護会議などの全体会議の後に生活支援部会議を行った。検討事項も多く生活支援部会議単独の会議日も必要であった。また、専門職が会議に参加することで多角的な意見を取り入れることができた。活発な意見を出せる雰囲気作りが必要であり今後課題として残る。

③専門職との連携

家庭支援専門相談員は生活支援も兼務する職員であり、生活と繋がりのある支援ができていた。今年度、職員配置の不足から専門機能強化としての支援はできず、医師との連携は薬の処方時に様子を報告した。今年度より男性心理士の配置があり、中学生男児や小学生低学年の心理面談・プレーセラピーを行った。児童相談所の心理士とも連携しながら心理ケアが行えた。自立支援コーディネーターとは自立を控えた高校生児童の金銭シュミレーションや奨学金の申請など連携して行えた。

4. その他

①新規採用職員育成について

新規採用職員にはチューター制を取り同性の職員が育成を行ったが、勤務が被ることが少なく課題があった。

②事故報告について

7月高3女児が通学途中で電車内で痴漢にあうことがあり、児童の連絡を受け警察に被害届を出す。同性の職員が精神的なケアを行った。

③ボランティアについて

月に1回アロマセラピーを行うために来ていただき、アロマオイルや入浴剤作りをしていただく。学習ボランティアは中学生男児2名に個々のボランティアがついて基礎学力の向上や受験対策の学習を行っていただく。活け花ボランティア、美容ボランティアは毎月来ていただいております。子どもたちも楽しみにしている。

④地域との関係について

地域の沼津市少年補導委員を受け、毎月市内の補導や地域行事の係に参加している。また、地域防災訓練や町内祭りに参加している。

令和元年度 第一分園事業報告（パインツリー）

＜運営総括＞

年度当初の児童構成は、小学生男児2名・女児1名、中学生女児2名、高校生女児1名の男女混合ホームでスタートする。性的事項には留意をしながら穏やかな家庭的なホーム運営を行った。地域ではホーム長変更に伴いあいさつ回りを行い、子供会、自治会活動にも積極的に参加し、地域の一員の中での分園であるという意識付けを行った。地域の方から声をかけてくださることも多く、寄付物品などのやり取りもあり、3年目である南本郷町への地域参画はできている。

職員体制もホーム長含め2名が変更となった。児童との対話を重視し、共同生活であることを念頭に他人に迷惑をかけない生活、また協力して他人を助ける気持ちを育ていけるよう支援した。様々な経験・体験を積ませることでより良い対人関係、心身の発達を促すことにつながった。

＜支援総括＞

児童がお互いを尊重出来るよう高校受験勉強やテスト勉強の際に他児へ協力をお願いする事や、友達を呼ぶ際は事前に話をする等、児童の要望に合わせて児童が他者の迷惑を考え、利己的な考えに陥らないような人格形成を育ていけるよう支援すると同時に、他児童が穏やかな生活を送る事が出来るよう支援した。生活に必要なルールについても職員間で会議を行い、状況に応じて見直しを図った。

①児童対応

被虐待児が多く、個別対応を重視しながら児童の能力、理解力に合わせた支援をおこなった。また、支援が難しい児童に対しては講師を呼んで心理カンファレンスを実施する事で、児童の理解に努めると共に、カンファレンスで得た情報を元に職員間で再度検討し、支援方法を模索した。児童間の関係については、被虐待児童の割合も多いことから児童相関図の把握や職員間での共有を怠らず、いじめや陰険な意地悪がないように注視した。小学生男児のふざけの延長から暴力的関わりに発展する事が多く見られた為、その都度注意、話し合いを行った。いじめ等は見られなかったが、児童に対する文句が出る事はあったので、その都度話しを聞き、受容した。

ホーム内では性的事故につながるような出来事は見受けられなかったが、児童間での距離が近く、身体接触も多く見られたので、その都度、注意をして意識を持たせるよう促したが、改善には至らなかった。異性関係では、人目をばからず接触したりと心配な側面もあるため、状況の把握に努め、年齢相応の付き合い方をするよう話しをして見守った。性的興味が強い児童である為、今後も注視が必要である。

生活拠点が異なる児童と、好意を持って関わっていた事があったので、本園と連絡を取り合い、対応を行った。また、本園児童と遊ぶ要望もあったのでその都度対応した。

児童の要望に沿って調理実習を計画した。また、調理をしたいとその場で声が出た児童に対しても一緒に調理を行った。買い物、手伝いなどすべての児童が調理に携わることができた。食事面もマナーよく食べることを意識出来るよう声掛けを行った。

②家庭との交流

家庭支援専門相談員を中心とし、学校行事での面会交流や長期休みに面会・帰省を行う等、家庭との交流を深めた。中学生女児が前年度から関係者会議を重ねて家庭復帰となった。実母には、三者面談へ参加していただき、共に進路決定をする場を設けた事、また週末帰省を利用して学校説明会へ参加した。その際、親だけで出掛ける事があった為、児童相談所と協議して対応を行った。また、今年度、実父と連絡を取る事が出来た事で、入所して初めて面会の調整を行った。児童相談所での面会を試みるが、祖父母は来るが、実父は来なかった。その後、家庭訪問を行い、祖父母宅で面会を行ない、その際に実父とも会う事が出来た。入所家庭関係の改善が見られない児童には、定期的に児童相談所に状況の共有や提供を投げかけていく事を今後も行っていく必要がある。

③学習対応

小学生の学習は宿題を中心に丁寧に行うよう支援した。高学年にもなるため自主的に宿題に取り組む姿勢も出ていたが、様子を見ると脱線している事が多かった為、その都度促した。長期休みを使って苦手な部分について把握をし、分かるまで一緒に学習を行った。

中学生の学習は、一時間学習を中心に毎日行うことは定着している。それぞれ能力に合わせた学習塾へ通い、面談を通し個々の学習能力の把握、今年度は、受験を迎える児童がいたので、児童に応じて勉強方法について検討した。授業参観、学校面談を通じ、学校での現れも把握しながら支援で

きた。スタディプランを含めた提出課題をきちんと提出することを念頭に取り組ませて、期限に遅れてしまったとしても課題の提出はできている。

高校生は自主性を尊重しながらテスト前などは声掛け、サポートを行った。一度、赤点を取りそうになった事で、努力をして元の点数に戻す等、改善に至っていた。学校に対して、友達関係での愚痴をこぼし、行きたくないという発言も見られたが、その都度、受容し、休む事無く通う事が出来ていた。

④行事

行事運営については、児童の希望に沿いながら行事を企画し、思い出に残る楽しい行事作りを主体とした。夏には宿泊行事、GW、冬にも日帰り行事を計画しそれぞれが思い出に残る行事を作ることができた。夏の行事では、家庭復帰を控える児童が長期帰省を実施していた事で全員参加とはならなかった。休日には地域主催の祭りやイベントに参加した。連休には公園、釣りにも出かけ、多くの体験、経験を積むことができた。招待行事にも多くの児童が参加し、支援に対するサポートへの感謝をしながら楽しい思い出を作った。

例年行っている全体行事、交流行事への参加も生活拠点が異なる児童との、異性間での関わりを懸念していたが、特に問題なく、前向きな姿勢で参加をする事が出来ていた。



※今年度実施した行事

行事名		参加者	経費
5月4日	GW行事：箱根園	全員；児童6名 職員3名	給：33,045 行：20,400
8月1日 ～8月3日	夏行事：神津島（宿泊行事）	全員；児童6名 職員3名	給：13,750 行：173,340
8月7日	夏外出行事：こどもの国	NA（小4）・AR（小5）児童2名 職員1名	給：302 行：1,400
8月22日	夏お出かけ行事（雨天）映画	NA（小4）AR（小5）SW（中3）SA（高2）児童4名 職員1名	給：8,552 行：4,700
1月2日	お正月お出掛け行事	NA（小4）AR（小5）SW（中3）SA（高2）児童4名 職員1名	給：13,836 行：18,700
2月23日	春行事：スノーボー・温泉		

※招待行事は、本園の記載に準ずる。

※その他参加した地域行事・遊びに行ったところ

香貫山クイズウォーク、四小ふれあい祭り、校区祭、子どもの遊びの王国、ドッチボール大会、静浦港、多比港、愛鷹山、田子の浦公園

<業務総括>

調理については、平日の夕食作りに調理補助が入ることで、栄養バランスの取れた温かい食事の提供が出来た。休日は職員が食事作りをすることで、買い物や一緒に調理を行う機会もあり家庭的な雰囲気を作れた。児童は、食事作りのお手伝いなど自発的にできていた。児童の誕生日には食事の

希望を聞き、手の込んだ料理でも調理士が手作りをしてくれることで、お祝いの雰囲気をも高める事が出来た。調理実習を希望する児童に対しては、職員と計画を立てて、自ら買い物へ行き、実施をした。食事マナーについては、普段の食事場面で注意をして改善に努めた。

健康面・衛生管理については、身辺整理にだらしない児童が多く、衣類や食器類など散乱してしまうことが多かったが、その都度対応し、だらしない部分を改善することに取り組んできた。休日には分担掃除、居室掃除に取り組み、清潔に保つよう心掛けた。衛生面では児童の手洗い・うがい、歯磨きの声掛けを行い、生活習慣の一部として身につけている児童が多い。衣類管理ができない女児が多く、自身の下着を干さずに置きっぱなしにする事や、同じ下着を着まわして下着の汚れをそのままにする事もあった為、その都度注意し、対応を行った。衛生面での意識向上に努めてきたが改善には至っていない。

健康管理には留意し体調不良に際しては早めの対応を心掛けた。施設内でインフルエンザが出た際、加湿器やうがい薬等対応を早急に行った。

防災については、地震避難訓練では、地域防災訓練への参加も実施した。火災避難訓練では、月1回行い、災害に対する訓練を行うことができた。

在庫管理については、日用品の在庫を適宜確認し、適正な在庫管理を行うことができた。

業務内で、小口現金等で間違いがあった際は、問題を共有して同様の間違いが起きないように留意した。また、夏行事での高額な駐車場代を支払う事になった際は、問題について事実確認を行い、今後起きないように検討を重ねた。

<職員間連携>

チームワークについては、個別対応を重視しながら、連絡を密に行い問題の改善、トラブル回避に努めた。しかし個々に話し合うことができて3人でそろって話し合う場に関して会議が中心であり、時間が限られている為、話し合いが十分に行う事が出来なかった。職員間での話し合いを日頃から心がけていたが、会議日数も少なく、休日の引継ぎ内でも話し合いを重ねてきた。しかしながらホーム長中心に曖昧な部分もあり、しっかりとした相談、報告ができれば良かった。多職種の連携も多く、報告、連絡を密に行うことを心掛けたが、報告出来ていない事が多く、連携が取れていない所もあった。ホーム長の意向になってしまうこともあるので、意見の集約や相談をしながら行う体制を作っていきたい。

会議については、職員会議、養護会議などの全体会議のあとにホーム会議を行ってきたが、研修や自立支援検討会などもあり十分な時間が取れなかった。本園の報告の際に意見をいただくことも多く、休日の引継ぎの際に会議を行うこともあった。

本園・他ホーム職員、専門職との連携については統括ホーム長に対する相談、連絡が少なく、事後報告になってしまいがちであった。本園職員には、本園での庭遊び、空手ボランティア送迎等、連携も取りやすかった。他分園とは、朝の打ち合わせや必要な際に連携を取った。全体行事では、バザーの手伝いを怠る等、情報の共有をホーム内で出来ていない事があった。家庭支援専門相談員とは家庭への連絡、帰省、面会、関係者会議の日程調整及びコーディネートを行ってもらったが、継続的な支援が必要な保護者が多く、家庭支援専門相談員に任せっきりであった。

心理士の心理面談は実施には至らなかったが、休日昼食や平日夕食時の会食など情報共有を行った。

<その他>

ボランティアについては、月に1回アロマセラピーを行う為に来ていただき、アロマオイルでの工作も好評であった。遊びボランティアに来ていただき、児童と遊びを通して関わってもらったが、途中からボランティアの方の予定もあって夏休み以降の実施はなかった。

実習生については、独占してしまいがちな児童がいる為、すべての児童と絡むことはあまりなかったが、ホームの雰囲気を理解してもらいながら実習に入ってもらった。また、実習生に対して態度が悪い児童に関しては対応を行った。

地域との関係については、南本郷町での生活が3年目であったが、松風荘の名称が地域にも浸透しており、とても良好な地域関係を築けている。踊りの練習等で勝手に違う事をしてしまう児童がいたので注意している。地域には高齢の方が多く、男手を必要とされる事もあったが、台風の影響でお祭りが中止になった事で参加する事はなかった。庭が広く、手入れも行き届かず枝が伸びて敷地から出ていることに指摘を受けてしまった為、環境整備から地域に迷惑をかけないようにしていきたい。

第二分園事業報告（ツインリーフ松風）

<運営総括>

児童構成は中学生男児 2 名、高校生男児 4 名の男児ホームでスタートする。高齢男児のホームであったが、大きなトラブル等は無かった。家庭的な養護という点に関しては、個々で過ごすことが多く食事の際も会話が少なく静かな食事になっていた。また高校生は携帯電話を持っており、部屋でゲームをして過ごすことが多く、児童同士の交流は見られなかった。

地域との関りは組長になった事もあり、組での活動にも積極的に参加し、今まで以上にご理解、ご協力を頂いた。

今年度は進路選択を控えた中学生 1 名と高校を卒業し専門学校に進学者が 1 名おり、自己選択・自己判断・自己決定が出来るよう、様々な視点から支援を行い進路に繋げた。

<支援総括>

① 児童対応

中学 2 年生の男児が移動になり、職員 2 名も入れ替わりになった。子ども同士の関係性については慎重に様子を見てきたが、お互いが干渉することなく、個々の生活に重点を置いていた。言いたいことを言える関係までにはならず、小さな不満がでるが職員が間に入り解決をした。子ども同士での解決することはできなかった。自立を目指しての支援が難しく、買い物の仕方、調理実習、掃除の仕方など十分にはできなかった。

② 家庭との交流

家族再統合を目標に、家庭支援専門相談員を中心に家庭や児童相談所、関係機関との連携を行う。進路選択を控える児童に関しても、情報共有を行いながら最善の進路に進められる様に支援をする。面会・帰省についても定期的に実施出来るよう調整を行った。帰省中にトラブルになり予定泊数より早めに帰ってくる児童がいたが、職員同士の連携がしっかりできていた為、スムーズな対応ができた。

③ 学習対応

中学生については毎日 1 時間学習する時間を設定し、塾や学習ボランティアを利用しながら基礎学力向上につなげた。高校生児童に対しては声掛けのみで終わってしまい、赤点をとる児童、クラス順位が低い児童が多く、学習意欲が低く課題が残る。

④ 行事

児童の希望に沿った行事を行ったが、職員が主体的に計画し実施になった。行事に行く前はめんどくさがり嫌がっていたが行事が始まると、どの児童も楽しんでいった。ラフティングなど今まで体験できないことを体験でき良かった。また泊まり行事でも泊数を短くすることで、部活やアルバイトに影響することなく実施することができた。

児童の誕生日には全員でお祝いをすることができた。



※今年度実施した行事

行事名		参加者
5月1日	流しそうめん	全員：児童6名 職員3名
5月3日	GW行事（フォレストアドベンチャー）	全員：児童6名 職員3名
8月1日 ～8月2日	夏行事（根熊山荘・ラフティング）	全員：児童6名 職員3名
8月12日	希望行事（箱根）	中3 児童1名 職員1名
8月15日	希望行事（横浜）	中2 児童1名 職員1名
8月23日	富士山行事	中学生2名 高校生2名 職員1名
8月24日	希望行事（スポッチャ）	高1 児童2名
1月6日	新年会（道頓堀にて夕食）	全員：児童6名 職員3名
3月	春行事	
3月	高3児童 送別会	

*招待行事、交流、全体行事は本園の記載に準ずる。

<業務総括>

平日の夕食作りに調理の補助職員が入り充実した温かい食事の提供をおこなえた。しかし、食事中に会話が無く、食べ終えるのも早かった。ゆっくりよく噛んで食べるように声を掛ける事が多かった。

衛生面では、年2回の健康診断を実施した。うち、一回は学校の健康診断とする。健康管理については、風邪をひく児童も少なく感染症の心配等も無かった。爪切り、散髪、髭剃り等は声を掛けないとできない児童もあり、生活の中で意識付け出来るような支援が必要であった。また季節にあった衣料調整もできない児童が多かった。

防災の取組みとして、月に一回の火災避難訓練を実施した。また、年に2回は地震を想定した避難訓練も実施した。地域防災訓練に積極的に参加をし、災害時の避難方法を学んだ。防災設備や備品の管理を実施した。

<職員間連携>

コミュニケーションを大切にしながら円滑なチームワークを形成したが、自己判断にて、報告・連絡・相談が遅れてしまうことが多かった。

確認不足から小口の紛失があり、振り返りをし今後の対応を考えた。

調理の補助職員より、事前に買い物のやメニュー変更等のアドバイスを頂き職員の食事作りがスムーズに行えた。

高齢児男児が多いため自立支援コーディネーターや心理士にも訪問してもらうことで将来の不安や精神的な支えになった。

支援員が2名と管理職が補助に入って頂いた事で、ホーム初めての職員でも心強く支援が出来た。しかし高齢男児ホームであり男性職員1名だったので行事等の負担が大きくなってしまった。

<その他>

地域との関係において今年度は組長を行い地域の方との交流が多くあり、地域に支えられていることを改めて知ることができた。小学生・中学生が少ない地域の為、来年度も中学の役員となる為、今まで以上に協力をしていく必要がある。

高校生には社会性や自立心を養うためにアルバイトやインターンシップを促していたが、なかなかすぐに取り掛かれない児童やアルバイトも直ぐに辞めてしまったりと継続できない児童が多かった。事故防止の観点からヒヤリハットの検証を行い再発防止に努めた。児童に関するヒヤリハットは少なく、職員の不注意や、やりっ放しの案件が多かった。

ボランティアについては、良好な関係性ができていたが、行事等で変更してもらうことが多く、曜日を変更することになった。

第三分園事業報告（もちのき）

＜運営総括＞

年度当初の児童構成は小学生男児1名、小学生女児2名、中学生女児2名の男女混合ホームでスタートし、4月上旬に幼稚園女児が入所をする。職員は1名が変更になった。児童の健全な発育を促すために児童との対話を行って行きながら児童の最善の利益と権利擁護を図った。本体施設と近い事で、緊急時や児童対応に困った際に応援に来てもらう事や、発達課題を抱える児童が多く、心理的サポート出来るよう本体施設、専門職との連携を意識的に取り組んだ。

＜支援総括＞

年度当初は幼稚園女児の問題行動が多く、他児へのストレスに繋がったり、中学生女児や小3女児の年下児童への関わり方に問題もあり集団として落ち着かず、ひとりひとりが安心して生活できる環境を一年通して作る事が出来なかった。また、小3女児から職員への暴言、暴力があり児童相談所での指導を行った。心理的サポートが必要な児童に対しては心理士と連携をして心理ケアが行えるよう努めた。また、問題行動のある児童に対しては統一した支援が行えるよう職員間で会議や引継ぎの時間を利用して話し合いをして行った。

＜児童対応＞

②家庭との交流

新規入所（幼稚園女児）の施設入所後の実母との面会については家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と連携し、実母の状況把握を行いながら丁寧に進めていった。実親、里親に対して思いがある児童に対しては児童相談所と連携をして、施設入所までの経緯を説明し、交流は難しい事を改めて伝えた。家庭復帰が困難な児童に対しては定期的に児童相談所に状況の共有や提供を投げかけていく事を今後も継続していく必要がある。

③学習対応・学校連携

小学生の学習については学校の先生と連絡を取り、子どもの学習の状況を把握しながら丁寧に支援をした。小3女児については算数の遅れが見られ、職員が横について教える事や週に一度の学習ボランティアを利用していくが改善には至らなかった。中学生の学習は毎日の一時間学習を設けたり、テスト前は職員が勉強を見るなどして基礎学力の向上に努めた。未提出課題がある児童に対しては学校の先生とも連絡をし、漏れがないよう努めた。

学校連携については、小3女児の登校渋りが見られ、担任の先生、スクールカウンセラーとも話し合いを行い、毎週金曜日に担任の先生と職員とで一週間の状況を共有する場を設けるなど、不登校にならないよう支援をした。

④行事

児童の希望に沿いながら行事を組み立てる事を目指した。ゴールデンウィークでは例年より休みが多かったこともあり、日帰りの行事を2つ計画し、夏は全員での宿泊行事、正月には日帰りでの行事を計画し、それぞれ大きなけがもなく思い出に残る行事を実施することが出来た。休日には地域のイベントや招待行事に多く参加させてもらうが、不適切な態度をとる児童もおりその都度話をした。沼津子ども劇場や子ども会行事ではグループホームの勤務体制では付き添えない時があり、本園の応援が必要不可欠であった。

＊今年度実施した行事

日付	行事名	参加者
5月1日	GW行事：映画鑑賞・プール	児童6名 職員3名
5月5日	GW行事：いちご狩り	児童6名 職員2名
8月6～7日	夏行事：九十浜海水浴・下田海中水族館	児童6名 職員3名
1月3日	正月行事：富士急ハイランド	児童6名 職員2名
3月24～25日	春行事：U S J	児童6名 職員3名



※招待行事

ヤングアメリカンズワークショップ・ヤマハモーターハイドリックシステム労働組合ボウリング大会、納涼祭・寄付金による富士山行事・未来塾芋ほり（小学生）・ジョイランド招待・三島チップディズニーランド招待・タイム昼食招待（男児）志摩津寿司の寄付

※交流、全体行事

沼津プロレスライブ・VOXRAYライブ・伊豆長岡合同企業説明会、資金講座・高齢児合宿・ボクシングセッション坂本さん・クリスマス会・もちつき・送別会

<業務総括>

平日の夕食作りに補助職員が入る事で、栄養バランスの取れた温かい食事の提供が出来た。休日は職員が食事作りをすることで児童が手伝ってくれたり、職員と一緒にお菓子作りを行うなど、調理に触れる機会を多く作ることが出来た。食事マナーについては年長児、小学生は定着しておらず今後もマナーを身に付けながら楽しく食事ができるよう心掛ける必要がある。

身辺整理については中学生児童は衣類、物等が散乱してしまうことが多く、その都度対応し、だらしのない部分を改善するよう取り組んできた。休日には分担掃除、居室掃除に取り組み、清潔に保つよう心掛けた。インフルエンザの予防接種及び、その他の予防接種は本園中心に把握をしていき行うことができた。年末に5名がインフルエンザに罹患し、その際の対応の仕方、感染症予防については課題が残った。

火災避難訓練を月1回行い、地震避難訓練を年2回実施をした。また、地域の防災訓練にも参加をした。

日用品や医薬品などの在庫切れがないよう適宜確認をし、適正な在庫管理を行うことができた。

<職員間連携>

ホーム会議を中心に児童の様子・問題の共有・対応について話し合い、統一した支援が出来るよう心掛けた。日々の引継ぎを丁寧に行い漏れのないように努めたが、引き継ぎ漏れや支援への気づきに欠けることがあった。

ホーム会議では専門職の方に入ってもらい、多角的な意見を取り入れることができた。月に2回の実施で時間に追われながらの話し合いになることが多かったため、会議のあり方の見直し、会議日を増やすなどの工夫が必要であった。

統括ホーム長への報告・連絡・相談は意識して行うよう努めたが、報告・連絡漏れや事後報告になってしまったことがあった。支援員との連携ではホームの予定、決定事項への報告が遅れてしまうこともあった。家庭支援専門相談員とは家庭への連絡、面会調整等、適宜連絡を取り合っていくよう努めた。今年度より男性心理士の配置があり、小学生児童のプレーセラピーを行った。児童相談

所の心理士とも連携しながら心理ケアが行えた。本園職員には児童の問題行動の対応、年長児童の幼稚園の送迎、行事等の引率など協力をしてもらう機会が多かった。第一、第二分園とは適宜連絡を取り合って、必要事項の確認を行った。

<その他>

① 勤務体制について

低年齢児の集団で年長児童の対応に追われることが多く、常に職員の複数配置が必要だったが、勤務体制上難しく、休日でも日勤をつけることが出来ないなど、職員への負担が大きくなってしまった。年長児の対応で他児の様子を把握出来ない事があり、その間に中学生児童が小学生へ嫌がらせをしていることもあった。状況に応じて応援に来てもらうことはあったが、応援体制の基準を明確にしていくべきだった。

② ボランティア・実習生について

学習面に課題のある小3女兒には月に一度の学習ボランティアを利用し、基礎学力の向上を図った。遊びボランティアも利用したが、一回に留まってしまった。

実習生受け入れについては、児童年齢も低いこともあり、実習生と児童の関係が作りやすい環境ではあったが、独占したがる児童が多くすべての児童と関わるができなかった。職員との振り返りの時間では平日だと児童の就寝対応の時間と被ってしまい、十分な時間を確保することができなかった。

③ 事故防止について

低年齢児が多く、幼稚園女兒は多動傾向であったため、常に目が離せない状態で危険を伴いかねない事案も多々あったため、職員間で見守る体制を強化するよう努めた。

家庭支援総括

1 家族再統合の為の支援（養育、養育支援、家族支援、家庭訪問 他）

保護者に対しては、児童の状況を定期的に報告し、保護者に安心感を与えるなど、児童の成長を報告することに心掛け、授業参観、運動会の行事などにも参加していただいた。

保護者に共感し、保護者の状況理解に努め、信頼関係の構築に心掛けることもできた。

児相相談所と施設とで、保護者に応じて役割分担もしながら適宜、対応を図った。

面会、帰省の実施は、児童相談所と共有しながら行なった。

家庭復帰ケースについては、小5男子、中3女子の2ケースであり、面会や帰省、週末帰省なども実施し、数回にわたり、関係者会議を行ない、引き継ぎも綿密に行なうことができた。

福島に移管するケースもあり、移管先の児童相談所との話し合いも行ない、引きつぎ等にも力をいれることができた。

また、家庭復帰ケースについては、静岡福祉大学の教授を招き、ケースカンファレンスを行なった。

足りない情報を周知し、児童相談所にもフィードバックをするなどの体制も図ることができた。児童の意向も尊重し、家庭復帰に向けた不安の解消と気持ちの確認を丁寧に行なった。

進学する児童や就職する児童の保護者にも、関係者会議を行ない、今後の交流などの話しも行った。

施設に入所してから保護者との交流が半年以上無いケースも、児童相談所と協議を行ない面会の時期を確認して、児童の状況に応じて慎重に対応した。家庭支援専門相談員2名で保護者面会を実施し、その後、親子交流を実施することが出来た。

保護者との交流が難しいケースは状況把握に努めた。その中で姉弟間での交流を行ない家族との繋がりを深めることが出来た。

2 児童相談所関係機関との連携

児童相談所との連携は、定期的に児童の状況を伝えてきた。

福祉司の不在が多く、伝言等で事が進むこともあり、直接のやり取りができず、対応が遅れることが多かった。また、児童相談所と施設の見解の違いもあり困ったことも多々あった。

年度途中に福祉司の変更があるケースもあった為、チーフや新担当の福祉司とも情報の共有に努めた。また、家庭復帰に向けた話し合いには施設長も同席し、施設としての見解を児童相談所に対して確実に伝えることが出来た。

3 その他

家庭支援報告は、職員会議、養護会議、ホーム会議等の場で必ず行ない周知を図った。児童担当、ホーム職員、主任との情報共有を図り、新人職員にもアドバイスをし、意識を高めることができた。

自立支援プログラム（自立支援コーディネーター）総括

1. 全体総括

次年度から日本学生支援機構の奨学金の制度が大きく変更するにあたり、情報収集に努めながら新制度活用できるよう情報の提供をしてきた。4名の卒園を控えた児童の担当者と連携をしながら円滑なリービングケアからアフターケアの移行を図れるよう尽力をした。

リービングケアにおいては高齢児合宿の運営、同友会との企業説明会を協働していき、インターンシップを利用できたことは大きな成果であった。また小学生も職場体験の機会も設けることができた。

アフターケアにおいては卒園児童の生活状況の把握に努め、社会福祉事務所、B4S、実家便などのサービスや支援団体につなげ、退学支援、就労支援、学費、生活費の管理補助を行った。

児童自立支援計画書についても、児童も取り組めるようなアセスメントシートを活用し、職員のアンケートも実施しながらよりわかりやすい、やりやすい自立支援計画書の作成に努めた。

情報の共有に関しては会議ごとに自 CO 報告書を作成した。様々な情報を精査し紙面を通じて共有化を図った。またホワイトボードを活用して会議のファシリテーターを行い、理解促進に努めた。

LINEWORKS を提供しメーリングリストに代わる情報共有化ツールとはなり得てはいるが、活用方法についての課題も見られ今後の整備も必要である。

2. リービングケアについて

【幼・小学生 学習・就労体験支援】

11月 2日 静岡クリエイティブタウン「ま・あ・る」 児童13名参加

静岡クリエイティブタウン「ま・あ・る」へ行き、お仕事体験や調理実習を行う場を提供する。3月に市内で行われる「街中だがしや楽校」へも参加を促し、低年齢児から就労体験を積む機会ができた。進路選択の幅を広げるためにも学習支援についても呼びかけを行うが、各ホームで個別対応に頼らざる得なく、施設全体としての取り組みとはならなかった。

【中学生 進路支援】

高校の進路選択を迫られる中学3年生児童の該当ホームでは進路会議に参加し、進路選択や支援方針の検討を一緒に行った。学習ボランティアも活用しながら学力面の向上を図った。途中入所児も含め、学ボラ、入塾とつなげることができた。希望進路に対してはそれぞれの特性に合った進路選択を心がけ、4名の高校合格を果たした。しかし進路会議のやり方や開催時期、決定方法などは次年度検討していきたい課題であった。中1・2年生に対しては塾が決まるまでの間の定期テスト前に赴き学習支援を行い学習意欲の向上に努めた。

【高校生 進路支援】

進学希望者に対しては奨学金についての話を適宜してきている。また担当職員とともに資金シミュレーションを作成し、アルバイトの励行に努めた。昨年度まで進学を希望していた児童が就労に切り替わる際には本人・前担当者も含めた関係者会議を実施し、児童の意向を尊重した進路選択をおこなった。

特別支援学校の児童とはハローワークへ一緒に行き、就職の見つけ方、ハローワークの活用を教え、学校からの推薦進路に促せるよう支援した。

次年度、高3となる児童へは早めの進路選択をうながせるよう、年度末の聞き取りアンケートにも参加し、児童の意向、次年度の進路スケジュールなどの共有をした。

【高齢児合宿・企業説明会・インターンシップ】

6月 8日：企業説明会

7月24日～26日 TS（高3）：インターンシップ

8月20日～22日・27日～28日 MA（高1・兄）：インターンシップ

10月19日～20日 高齢児合宿

	日程	時間	内容・講師
	10月19日	10:00～10:30	園長挨拶・開会宣言
①	1日目	10:30～12:00	「生きる力と勇気」坂本博之氏 ※全体
②		13:00～15:00	「LGBT・権利擁護」網谷勇氣氏
③		15:30～17:00	「キャリア教育」ブリッジフォースマイル
④		19:00～19:30	「ストレスマネジメント」齋藤心理士
⑤		19:30～20:00	「卒園生講和」OK ST
⑥	10月20日	9:00～10:30	「性教育」後藤允代氏
	2日目	11:00～	まとめ・園長講話・閉会宣言

中学3年生児童以上を対象に企業説明会を伊豆長岡学園と協働で開催する。就職希望の児童が説明会から夏休みのインターンシップをすることができる。部活をやめてしまい、アルバイトもできなかった高1児童もインターンシップを行い就労の大切さ、就労報酬の喜びを体験できた。高齢児合宿は9回目となりテーマに沿いながら各講座を行う。1日目の午前には当事者である元プロボクサーの坂本氏を招き、夢を追うことの大切さを全児童で聞く。全日程を通じてテーマを決めたことは一つの成果となった。また児童の参加姿勢も大変良く、卒園生についても昨年度卒園した直近の児童であったことから感銘を受けることが多かった。

しかし開催時期についてはいずれも検討が必要であり、次年度企業説明会を夏休み前、インターンシップによりつながりやすいように開催するため、高齢児合宿も開催時期の見直しは必要であろう。

【性教育】

性教育委員会に参加し、高齢児合宿のテーマにそった講座を運営、性教育マニュアルの改訂に携わり、施設内恋愛のアンケートの作成、集計を行った。例年、性教育委員会のみの参加となるため、コーディネートをを行う立場として委員会に参加する意義を次年度は再度見直していきたい。

【外部との連携】

フェアスタート・同友会・沼津経営塾・うみのワークス・アイム・VOXRAY

今年度はじめてインターンシップを行うことになったのは継続的に企業説明会を開催した成果であった。次年度はインターンシップへつなげることを中学生の児童から広げていけるようにしていけるよう、企業説明会の進め方を検討していく。またスーツの贈呈も太陽の種活動からご寄付いただくことができた。

3. アフターケアについて

【退所者支援】

○自立支援強化事業

年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22～23年度
卒園	3	2	3	2	3	1	5	3	0
措置変	0	0	0	1	0	1	1	0	0
家庭復帰	2	1	1	3	3				

卒園 22名 措置変 3名 家庭復帰 (5年) 10名 合計 35名

昨年度、進学した児童の金銭管理の補助を行ってきたが、奨学金をもらって進学を果たした児童が早々に妊娠、退学をする。その後も異性関係でのトラブルもあり多くの支援と連携、就労支援もお願いした。進学をした児童の支援は卒業しても就労で躓いてしまう児童もあり、定期的な連絡、支援が必要であった。在園中の児童もアルバイト変更後の精神的な不安定さにも陥り、支援は困難であった。奨学金の新制度もはじまるため、金銭管理と学業維持は進学者に対して必須の課題となり、

支援方針もより細やかにしていく必要がある。就労者は仕事に慣れるとともに生活も安定を増し、高齢児合宿に呼べるに至った。高校進学時の家庭復帰児童はその後、不調を起こしてしまい、再措置となってしまう。家庭復帰児童を家庭も含め、施設がどのようにかかわり支援していくかも次年度の課題としていきたい。

経済困難で生活保護の受給に至った若年層も出ており、施設にいる間のリービングケアで社会性、自立心を養う環境の整備が必要であると感じている。

適宜、家庭訪問や面会、電話連絡などはできていたが、連絡が取れない児童もいた。今後も引き続き卒園児童の状況把握に努め、状況に応じた社会資源の提供などの支援を行っていきたい。

【情報共有】

自立支援コーディネーターの報告の中でアフターケアに関する事柄を要約し、全体共有に努めた。また記録システムの掲示板にてアフターに関する記録の共有を行った。退所児童の連絡先一覧の更新までは至らなかったが、卒園生の退所後調査を行い、施設退所後の状況の推移を示し課題を抽出している。

4. 児童自立支援計画書について

児童の聞き取りアンケート様式を変更し、児童にもわかりやすく、取り組みやすいアセスメントシート（がんばろう計画書）の作成を行った。絵を入れたことにより親しみやすいシートとはなったが、高齢児と低年齢児の差もなくしたことや、取り組み方法の周知がなされなかったため、職員では混乱もあった。生活支援員へ事後アンケートを取りながら改善を重ねていき、計画書作成におけるフローチャートを作った。年度末評価もアンケート様式の書式を変更し「今年度どうだった？」用紙を使用し聞き取りを行った。また従来の自立支援計画書の書式の見直しをし、作りやすくわかりやすい計画書の作成をおこない、次年度から施行する予定となっている。自立支援計画書も児童に分かりやすいプロフィールを職員が児童目線で作成してもらうことを依頼したが、全体周知とはならず次年度以降の活用を徹底していきたい。児童自立支援計画書は子どものための計画書でなくてはならないため、より子どもが親しみやすく目標とやすい、わかりやすい計画書作成を考えていきたい。

5. その他

【外部研修】

自立支援コーディネーター委員会やブロック会議等に参加して集めた情報は、自 Co 報告書内で書面化している。コーディネーター指定研修でのホワイトボードミーティングは実際に活用を行っている。自己研鑽にはつながるものの、他職への還元とまでには至らず、学習会で得たような知識や人とのつながりは施設内研修などで活かせるよう活用方法を考えていきたい。

【ボランティア】

年度当初、児童や職員の異動、ボランティア担当の変更に伴い、ボランティアの活動場所の変更も進めた。しかしスムーズに移行したとは言い切れず、その後連絡が途切れてしまったりしたことが多く、把握も難しかった。新規のボランティア募集は個人にとどまらず、高校生の活動や日本語学校の留学生の交流など団体からのお話もあり、調整には苦慮したものの、内容は多岐にわたるものとなった。新規のボランティアも希望が多く、見学、説明を経たうえでボランティア活動をお願いした。途中入所の中3児童への学ボラを昨年度の学ボラに継続してみてもらい、散髪ボラやアロマ、活け花ボラなど長年ボランティア活動を継続的にやってくださる方々もおられる。長く、継続してやっていただけることは施設にとっても貴重な財産となるため、活動内容や児童とのマッチングは今後も丁寧に行っていきたい。

【その他】

次年度の方針、総括は自立支援強化事業計画書、実績報告書を兼ねて作成していきたい。

食生活総括

1. 子どもの健康と食生活

①体重、身長測定の結果

やややせ 7名 やや太り 3名 太りすぎ 2名

全体的に男女ともに順調に成長をしている。女子中高生に関して自己コントロールに努めている様子も伺えた。男子中高生は体重増加も見られる一方、身長が著しく伸びているためやややせの判定の児童が多い。

②治療食

体調不良時はその都度消化の良いもの、本人が摂取できるものに献立を変更蔓延することないよう、衛生管理の徹底を実施

③外食・外注 児童の楽しみ、意識的な職員の関わり

5月 子どもの日 寿司招待

8月 アミューズメント施設招待 富士登山行事 夏行事外食

12月 地域支援者昼食招待

1月 冬行事外食

2月 ディズニーリゾート行事

3月 卒業外食

夏季、冬季に衣料外食あり

④食事時間

食事時間が守れない児童や、食事中席を立つ児童も見受けられ食事に集中できていない様子も伺えるが、基本的にはみんなで挨拶ができ時間内に終わることができている。中高生は個々の時間に合わせて3食を済ますことができ、食事を摂らない児童はいない。

⑤嗜好調査

本園、グループホームごとに嗜好調査実施、随時献立に反映している。

食べたい食事を自由筆記にしたが、記入できている児童とできていない児童の差ができ食に興味がある児童は複数の回答ができていた。また、幼児や小学低学年児童にはイラストにし、食べたいものに○を付けるようにした為より多くの意見を聞くことができた。無回答もあった為、今後はより多くの意見が出るよう更なる設問の工夫が必要。

⑥誕生日会の献立

個々の希望するメニューが違い大好評であった。また調理による手作りのケーキを希望する児童もいた。

2. 児童の役割と食事作り

①役割

本園は布巾洗い、炊事当番、片づけ当番を学年別で分け手伝いを行った。また、バイトや部活等で人数が確保できない日が多いため、中高生は土日祝のみ片づけ当番を行った。

グループホームは、毎日役割を決め児童が協力し片づけを行った。

②児童の手伝い、食事作り

本園は業務用調理機器のため、コンロの高さや火力の強さで取り扱いが難しい状況であったが、ホットプレートやカセットコンロを使用し調理実習を行え、また日々の配膳や片付け、お手伝いをしてくれる児童が増えた。

パインは、ほとんどの児童がおやつ作り、お手伝い、調理を行った。

ツインは、全員中高生のため調理参加が少ないが、行事や庭での食事が多くお手伝いをする環境作りを行った。また、調理職員不在時の調理を手伝う時もあった。

もちのきは、ほとんどの児童がとてもよく手伝い、調理、おやつ作りを行った。

3. 環境整備（衛生管理・食中毒対策）

大量調理マニュアルの基、日々の業務での衛生管理ができ、害虫駆除、細菌検査（ノロウイルス検査含）を定期的に行い感染症等に繋がることはなかった。また、県下での警報時、各グループホームへの情報伝達、注意、啓蒙を行った。

4. 器具什器の購入

消耗品、食器類は必要に応じ購入

5. 食事摂取基準量

塩分、食物繊維、成長曲線、エネルギーの過不足は身体計測の増減や生活状況で確認

6. 地域交流

バザー 11月24日（日） 焼きそば、赤飯、ふかしまんじゅうが大好評であった。

メニューに新しくフランクフルトを加え提供した。

クリスマス会 12月21日（土） 来荘者にお土産とし手作りパウンドケーキを配布した。

7. 会議、記録と連絡

職員会議 1回/月

食生活会議 1回/月（計11回）施設長・生活支援職員が参加をし、意思疎通を図った。また6月、2月の会議では、グループホーム調理員も参加し情報共有を図った。

調理日誌、検食簿、朝の打ち合わせ、必要時検討を実施。

8. 職員体制

正規職員3人、非常勤1人、グループホーム非常勤3人

各調理員・調理補助員の協力のもと感染症等なく毎日の食事の提供ができた。また、献立表や改善したほうがよいメニューの提案や意見も挙がり調理しやすいものへと変更し、わかりにくいメニューや新規のメニューはその都度献立に調理工程を記入するよう努めた。

栄養士業務については献立作成、発注、食育や食中毒予防の業務、及び本園だけでなくグループホームへの支援を行い衛生管理、食中毒の予防に努めた。

調理職員全体での調理実習を行い、メニューの改善や意見交換の場の提供ができた。

9. グループホーム支援（1回/月）

かかわりの少ないグループホーム児童とも会話する機会を持ち、職員の要請があった場合や身体計測、体調管理等気になる箇所は確認を行えた。

献立表を事前に配布し、わかりにくい箇所は献立表へ記入し、訪問時直接話をすることによって、各グループホームの調理補助員の方々の調理法やアイデアなども聞くことができた。次年度以降も、本園、各ホームの調理員が意見交換できる場を提供できるよう、また人気のある手作りおやつや誕生日メニュー等を松風荘全体の献立として反映できるように検討する。

10. 研修

給食協会、東部保健所講習会、給食研究会、中部衛生検査センター衛生講習会、園内研修

11. 災害時の食事作り、釜戸訓練

非常食、備品の確認、釜戸で調理、もちつき

飯盒炊飯/キャンプでの釜戸調理（本園/各ホーム）

12. 季節の行事食とおやつ作り

季節に応じた食材、行事食の提供

調理員、調理補助員や職員によるおやつ作りが多く、児童の楽しみ一つになっている。

13. 実習生の受け入れ

オリエンテーション（衛生管理注意事項配布）、調理実習（朝・夕食）

14. まとめ

嗜好調査や日々の生活で児童の声を聴き、おいしい食事、食べやすい食事作りに努め成長期の児童が順調に成長できた。また衛生管理に努めた為、感染症等蔓延することなく治療食も個別対応できた。アレルギー、肥満、痩せなど個別対応が必要になり、職員間での周知や対象児童への声掛けなど行い、職員の要請があればその都度対応に努めた。

アレルギー対応が必要な児童の受け入れをした際には、アレルギー検査報告をもとに、調理工程の再確認や除去食の注意事項を作成し周知徹底を行った。

ご寄付や招待行事などが多く、児童の食に対する楽しみが増え興味が高まったと感じるが、試行調査より食への興味は薄いため関心が高まるような食育が今後の課題であるが、第三者サービス評価では、食事の時間は楽しいひと時になっていると答える児童が多かった。

自立に備えて児童が毎日の生活の中で調理する機会の増加がみられる一方、課題でもある。

心理支援報告

1. 心理療法

日常生活での支援を並行してより専門的な児童の心理ケアのために、個別の心理療法を行った。プレイセラピーとカウンセリングを手法とし、主にトラウマ治療や発達の促進、不適応状態の緩和等を目的とした。

- ・対象：被虐待児童・生活適応に問題を抱える児童等
- ・日時：心理療法予定表を作成し実施した。1回 60分・月1回～4回
- ・対象児童（生活場面面接を含む）

N.H（小1 女児,本園）

S.T（高3 男児,本園）

T.A（中3 男児,本園）

R.K（小3 女児,第三分園）

A.K（高3 女児,本園）

H.K（小4 男児,第三分園）

2. 児童への生活場面における心理的ケア及び養育環境づくり

学習、食事、清掃、余暇等の生活場面に参加し、発達や適応に課題を抱える児童に対し、心理的側面に配慮した関わりや支援を行った。また、生活場面において児童から訴えがあった場合等に話を聞いたり個別的な関わりを通し、治療的関わりを行った。

- ・児童への生活場面面接

児童の居室及び生活空間において面接を行った。生活空間の中での面接なので、一般的な心理療法とは違い、児童の状況において柔軟に実施することができた。

- ・生活場面における児童の観察及び観察的関わり

生活場面での児童の生活状況（基本的生活習慣等の身に付き具合）や対人関係を観察及び観察的関わりを行った。状況に応じて介入しながら生活場面面接につなげ、心理治療的介入、心理教育的介入を行うことができた。

3. 心理教育

高齢時合宿にて中学3年生から高校3年生男女を対象に心理教育としてストレスマネジメントを実施した。ストレスのメカニズムについてロールプレイを取り入れながら説明をし、ストレス対処としていくつかのリラクゼーション法を提示し実施した。

4. 職員へのコンサルテーションの実施

荘内でのケース検討や心理療法後、および一日の業務終了時に職員と見立て及び具体的な支援方法についてコンサルテーションをすることができた。

5. 医師との連携

精神薬投薬中（中断中も含む）の児童に対してかかりつけの小児科医に通院（月1回）の都度、対象児童の様子を報告、共有し支援における助言をしてもらった。また、児童の急な投薬拒否についても速やかに電話連絡をし対応策について助言をしてもらった。

6. 学校との連携

児童の学校生活や学習、友人関係について学校教員やスクールカウンセラーに相談、情報交換、情報共有をし、児童の学校不適応への予防的介入、具体的な援助に繋がった。

7. 児童相談所との連携

児童相談所の福祉司、心理司等と定期的に児童の見立てや生活場面での様子を報告、共有した。また、精神薬投薬中の児童については減量増量した際の前後の様子についても細かく報告することができた。

8. 心理カンファレンス

年に二回、施設内にて対応の難しい児童を対象に外部講師を招いて、見立てや対応方法について検討するために心理カンファレンスを行った。グループワーク形式で行い、職員一人一人が発言のしやすい環境作りをして取り組むことができた。

防災安全委員会総括

1. 総括

(防災部門)

- ・緊急連絡網を作成し、通報訓練を実施した。
- ・年度初め、新規児童入所、部屋替えの際に各防災バッグの中身、備品チェック、家具等の転倒防止対策を行なった。(本園・2回/年 グループホーム・1回/年)
- ・住所や氏名、連絡先、血液型、服薬の有無など個人情報分かる物を作成した。
- ・火災・地震の避難訓練を本園・分園にて行った。10月に松風荘防災の日の取り組みとして職員、児童を煙体験や炊き出し訓練を予定していたが、台風19号の影響で実施出来ず。
- ・大型台風が来た際の対応、検証を行った。
- ・防災備蓄食の受け払い簿を作成。
- ・非常時の献立を改訂し備蓄食の管理に繋がった。
- ・防災備蓄品：非常用マグネシウム空気電池 一式・非常用水電池 100個購入。
- ・防災備蓄食：賞味期限備蓄入れ替え、保存水 6本×50箱 計 300本購入。

(安全対策部門)

- ・児童間の関係を把握する為、聞き取りをおこない、児童相関図を作成した。作成した児童相関図を基に各部会で話し合いを行い支援に活用した。
- ・ヒヤリハットでは職員会議にて毎月出されたヒヤリハットの中から危険性が高いヒヤリハットをピックアップして全体に周知を図った。各会議にてヒヤリハットの検証を行い、事故防止に努めた。また、ヒヤリハットの年間統計を会議にて周知した。
- ・松風荘周辺の壁危険箇所をハザードマップにまとめ作成した。
- ・公用車の事故防止のため安全運転管理者を設け事故防止に努めた。
- ・職員のAED研修受講を行った。

(安全運転管理者)

- ・安全運転管理者講習と安全運転に関する研修に参加し、危険運転やアルコールの知識についても職員会議にて説明を行った。
- ・運転免許証の確認と任意保険の加入状況の確認を行い、書類での管理を実施。また、運転管理規定の周知を行った。
- ・新任職員の公用車の使用にあたって、同乗試験を実施し、確認後に運転許可をした。
- ・運行記録簿の管理の他、各部署において公用車の洗車を月に一回行う決まりを作り、綺麗に保つ事が出来た。
- ・公用車の事故が発生した場合は、会議の場で周知を行い再発防止に取り組んだ。また、公用車の傷の状況を把握し管理徹底を行った。

(事故報告)

- 7月 高3女子 通学中の電車内にて痴漢
- 10月 小3女子 職員に対しての暴言、暴力

2. 委員会活動報告

4月	緊急連絡網の作成、防災バッグの内容確認
5月	通報訓練の実施児童への聞き取り実施
6・7月	児童への聞き取り実施 児童への聞き取りに基づく児童相関図作成 ⇒ 養護会議で報告
10月	「松風荘・防災の日」として災害食の炊き出し訓練、煙体験を実施予定であったが、台風19号の影響で実施出来ず。
2月	総括・方針

3. 次年度の課題

- ・職員の防災訓練実施
- ・児童を含めた総合防災訓練の実施
- ・年1回燃料の交換
- ・事業継続計画(BCP)の作成

マニュアル委員会 総括

1. 総括

年度当初から委員会内でマニュアルの見直しを行い、改定が必要とされるマニュアルに関しては適宜改定を行い全体に周知を行った。今年度は支援のマニュアルの見直しを重点的におこなった。新規入所児童向けに作成した施設案内マニュアルである「松風荘ってどんなところ？」を施行し、新規入所児童の事前面会時や施設案内の際に活用することができた。

今年は猛暑が予想されたため、熱中症予防対策、熱中症の症状があらわれた際にどのような対応をするのかを栄養士と連携してフローチャートにまとめたものを利用し、委員会の役員主導で児童に向けた周知活動を行った。職員と児童が熱中症に対する理解を深め、意識的に自分の体調を管理することができていた。

児童向けのマニュアルの編纂を行っており、来年度は使用方法についての検討を行ったのちに本園・各グループホームで統一した支援をするべく活用をしていく予定。

職員の資質向上を目指した職員育成、支援スキル向上の対応マニュアルの見直しを行うにあたり、職員の業務を見直すためのアンケートを行ったが、委員会の役員内での試験的なアンケートの実行にとどまってしまい、施設全体でアンケートの実施をすることができなかったため、次年度の重点課題として早急に行いたい。

2. 委員会活動報告

委員会	月	内容
第1回	5月職員会議	方針検討・支援マニュアルの見直し
第2回	7月職員会議	業務の見直しアンケートを検討
第3回	11月養護会議	支援・業務マニュアルの見直し
第4回	1月職員会議	入所している児童に向けたマニュアルの整備
第5回	1月養護会議	総括検討・来年度の重点課題検討

3. 周知活動報告

対象者	月	活動内容
新任	4月	新任研修にて業務手引き・支援マニュアル読み合わせ
全体	6月	消防計画書の読み合わせ
直接処遇	8月	熱中症対策・対応の周知活動
直接処遇	1月	支援・業務マニュアルの確認（予定）

4. 今年度改定・新設したマニュアル

- ・帰省時の持ち物に関する諸注意（改定）
- ・誕生日会マニュアル（改定）
- ・夏祭りマニュアル（廃止）
- ・ゲーム機の購入と使用についてのマニュアル（新設）
- ・お風呂の感染症対策（検討中）
- ・受験生の生活についてのマニュアル（検討中）

5. 次年度の課題

- ①職員の業務見直しアンケートの実施、および職員の資質向上を目指した職員育成、支援スキル向上の対応マニュアルの見直し
- ②委員会主体のマニュアル研修会の実施（熱中症・インフルエンザ対応ロールプレイ）
- ③「松風荘ってどんなところ？」の継続的利用

性教育委員会総括

1. 総括

- ・児童間の関係性や特性を捉え、小集団の中での性教育を高めていく事を目標に各部署での個別性教育の実施を行った。また、生活場面の中から性と生について教えていく事を意識して取り組むことが出来た。
- ・全職員が正しい性に対する知識の向上を図る為、委員会で新たな性教育マニュアルの作成、検証を行い、施設内性教育の体系化を見直すことが出来た。

2. 取り組み内容

- ・本園・各ホームで性教育個別計画を確認し、性教育を2回実施する事を目標にする。
→本園・各ホームで性教育を行うにあたって検討して実施をしたが、全員が2回以上実施する事は出来なかった。また、個別だけでなく集団としての性教育の実施の検討をした。
- ・高齢児合宿の性教育実践計画を実施する。
→今回は仕事をテーマに沿った性教育となり、「働く」を取り巻く、「人間関係」「コミュニケーション」についての講座を実施した。内容も分かりやすく、グループワークにしたこともあり、集中しており、講座を聞くことが出来た。
しかし、性教育委員会での実践計画は行えず、性教育委員会の中の高齢児合宿担当者での検討に留まってしまった。
- ・性教育園内研修の実施。
→今年度は時間の確保が出来ず、実施することが出来なかったため、来年度は実施をする。
- ・性教育マニュアルの内容を行い、改訂する。
→職員全体で性教育の統一が図れるように性教育マニュアルの作成、検証、改訂することが出来た。
- ・施設内恋愛についての検討
→全職員対象の施設内恋愛についてのアンケートを実施した。アンケートの結果から施設内恋愛については現状のままだが、起きたときの対応をマニュアルに組み入れ、統一した支援が出来るようにした。今後も定期的なアンケートを実施して、施設全体として継続して取り組んでいけるよう心掛ける。

3. 委員会活動報告

- 4月：方針・年間報告・役割決め
- 7月：集団性教育検討・施設内恋愛について検討
- 10月：高齢児合宿での性教育実施。
- 11月：施設内恋愛についての検討・マニュアルの見直し
- 12月：施設内恋愛についての検討・マニュアルの見直し・集団性教育検討
- 1月：総括
- 3月：次年度方針検討。

4. 次年度の課題

- ・施設内での性教育のやり方について
- ・新マニュアルを活用し、施設内での新任職員研修に性教育について取り入れるなど、職員の性に対する正しい知識の向上を図る。